

1 気候市民会議さっぽろ2025の概要

(1) 気候市民会議さっぽろ2025とは？

- 「気候市民会議」とは、無作為に抽出された市民が、専門家から提供される情報をもとに対話と検討を重ねて、「気候変動対策」をまとめ、市に意見提案を行うもの。
- 「気候市民会議さっぽろ2025」では、札幌市が2050年までに「温室効果ガス排出量実質ゼロ」を実現するために、取り組むべきアイデアについて話し合いを行い、札幌市に意見提案を行った。

(2) 実施体制

参加者	無作為に抽出された39名の札幌市民
主催	札幌市
講師	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 阿部 佑平様、岡村 篤様
協力	第13次札幌市環境審議会 山中 康裕 会長(北海道大学大学院 環境科学院教授)

(3) 参加者の選出方法

- 16歳以上の札幌市民3,000名を無作為に抽出し、参加案内を送付。
- 参加希望者114名から、年齢や性のバランス考慮して45名を選出し、実際に39名の方が参加。

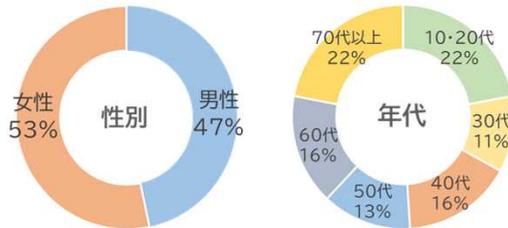


図1 選出者（45名）の内訳

(4) 意見提案の作成プロセス等

- 札幌市の気候変動対策上の主要課題として、市民活動を支える「住まい」と「移動」をテーマとした。
- 第1回（2025年1月10日）・第2回（2025年2月2日）の会議では、各テーマについて、札幌市からは市の取組や考え方を、講師からは課題解決に向けた枠組みや事例などを紹介したうえで、参加者同士の意見交換を実施。
※第1回テーマ：“住宅の省エネ化”と“住宅における再生可能エネルギー活用”等について
第2回テーマ：“自動車の脱炭素化”と“公共交通機関の利用促進や脱炭素化”等について
- 第3回（2025年2月24日）の会議では、第1回・第2回会議を踏まえ、事務局で作成した「意見提案書（案）」をもとに、より良い内容とするための検討を行い、意見提案書として取りまとめた。
- 意見提案書は「第13次札幌市環境審議会・気候変動対策行動計画検討部会」の中で共有し「札幌市気候変動対策行動計画」改定への反映を検討する。

2 意見提案の概要

- 「住まい」については173の取組アイデアが、「移動」については206の取組アイデアが提出されたことから、事務局で重複するものや類似するものをまとめ、意見提案の形で再整理。

(1) 「住まい」に関する意見提案

<新築住宅>

- ①補助金制度の拡充や改善 ②減税制度の導入 ③再エネ導入の推進(太陽光、水素等)
- ④太陽光発電についての情報発信 ⑤太陽光パネルの技術開発 ⑥防災対策への支援
- ⑦安心・信頼できる事業者の紹介 ⑧オール電化の推進 ⑨住宅設備の技術開発の推進

<既存住宅>

- ⑩既存住宅の活用 ⑪リフォームに対する支援 ⑫リフォームの工夫 ⑬電化製品の交換への支援
- ⑭公営住宅等における設備導入 ⑮暖房・給湯機器のエネルギー変換

<民間賃貸住宅>

- ⑯民間賃貸住宅の省エネ設備導入支援 ⑰入居者やオーナーへのインセンティブ ⑱断熱性能の向上
- ⑲入居者への普及啓発 ⑳壁面への太陽光パネルの設置 ㉑マンション全体での理解促進
- ㉒賃貸住宅についての情報発信強化

<行動変容・その他>

- ㉓補助制度についての情報発信強化 ㉔情報発信媒体の工夫 ㉕省エネ行動の見える化 ㉖省エネ行動の義務化
- ㉗省エネに対するインセンティブ ㉘学校等における環境教育の充実 ㉙住まい方に関する意識の改善
- ㉚消費電力の削減 ㉛暖房に係るエネルギーの削減 ㉜ごみの削減 ㉝リモートワークの是非の検討
- ㉞車利用の抑制、公共交通の利用 ㉟EV車等の導入促進 ㊱環境への配慮 ㊲先進事例の調査
- ㊳熱対策・冷却の実施 ㊴まち全体を考える ㊵無責任な取り組みは止めるべき ㊶原子力発電の推進

(2) 「移動」に関する意見提案

<自家用車>

- ①次世代自動車への税負担等を減らす ②ガソリン車の税負担等を増やす ③電気自動車の利用を促進する環境づくり
- ④電気自動車の充電設備の充実 ⑤電気自動車についての情報発信の強化 ⑥電気自動車の性能向上
- ⑦電気自動車の選択肢を増やす ⑧電気自動車のバッテリー性能の向上 ⑨事業用自動車の脱炭素化
- ⑩公共交通等の車両の脱炭素化 ⑪レンタカーの脱炭素化 ⑫EVIはエコなのか ⑬水素自動車

<自転車>

- ⑭レンタサイクルの充実 ⑮駐輪場を増やす ⑯冬の自転車利用の検討 ⑰自転車購入の支援
- ⑱自転車の走行環境の向上

<公共交通>

- ⑲地下鉄路線の拡充 ⑳地下鉄ダイヤの改善 ㉑地下鉄運賃の値下げ・補助 ㉒地下鉄利用を快適に
- ㉓バスの増便 ㉔バスの運行方法見直し ㉕バス運賃の値下げによる利用促進 ㉖バス利用を快適に
- ㉗バス事業者の収支改善策の検討 ㉘観光客の利用促進 ㉙バスの新たな活用方法の検討
- ㉚バス運転手・担い手の確保 ㉛バスの自動運転化 ㉜デマンド交通の導入

<行動変容>

- ⑳歩いてみたいと思える環境づくり ㉔冬の歩行空間の改善 ㉕車を利用しない仕組みづくり
- ㉖ライフスタイルを変える ㉗免許返納後の支援 ㉘カーシェアリング・相乗りサービスの推進
- ㉙公共交通を利用したくなる仕組みづくり ㉚買物やイベント時の公共交通利用促進
- ㉛公共交通利用促進に向けた情報発信 ㉜まちなかを公共交通専用区域に ㉝まちなかの魅力向上

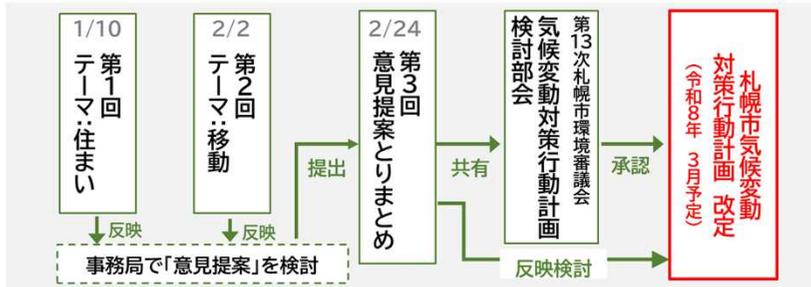


図2 意見提案作成と計画への反映プロセス